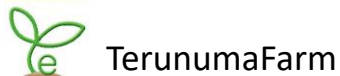


有限会社照沼農園

農福連携による作業改善と経営発展



有限会社照沼農園の取組の概要



- ・所在地：茨城県水戸市元石川町2724-1
- ・法人設立：平成18年3月15日
- ・従業員数：正社員3名、パート2名

2003年9月	照沼農園開設 仕入による米穀店を開始
2003年11月	水戸市内飲食店3店舗契約
2004年4月	ハウス内で野菜の栽培開始
2004年5月	水田15aを借り米穀販売用の米の栽培開始
2006年3月	社名変更 農業生産法人有限会社照沼農園へ
2006年4月	精米機械設備導入
2012年4月	F1種米種採種栽培開始
2014年7月	牛井用米の出荷開始
2016年4月	水耕栽培にて野菜の栽培を開始
2020年3月	農福連携の開始

有限会社照沼農園の取組の概要



○栽培作物：水稻 栽培面積16ha

コシヒカリ、山田錦、にじのきらめき等 計9品種



有限会社照沼農園の取組の概要



○栽培作物：野菜 実栽培面積26a（ハウス面積40a）

農業ハウス3棟（土耕栽培）：アスパラガス、トマト

農業ハウス8棟（水耕栽培）：14品種

（リーフレタス、サンチュ、ベビーリーフ、チンゲン菜等）



有限会社照沼農園の取組の概要



○設備の全てを自作した水耕栽培



5

有限会社照沼農園の取組の概要



○販売：

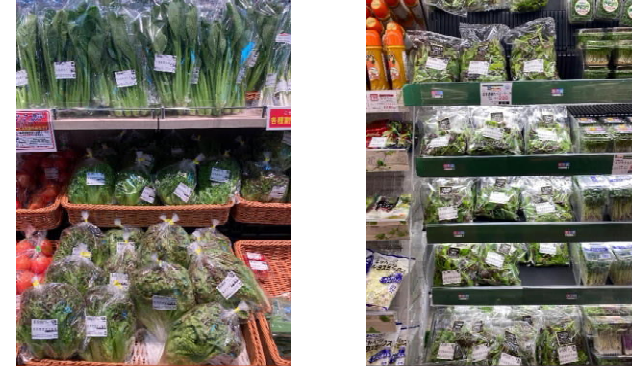
直売所及びスーパー

15ヶ所

飲食店（居酒屋、焼き肉店等）

75店舗

その他 コンビニエンスストア、結婚式場、老人ホーム等



6

農福連携のきっかけ



○販売も順調で人手不足になる。



- ・ハローワークなどでパートを募集するが水戸市内は求人案件が多く、集まらない。
- ・たまたま、茨城県共同受発注センターの職員が福祉施設への農作業の委託をしてみないかと訪ねてきた。

7

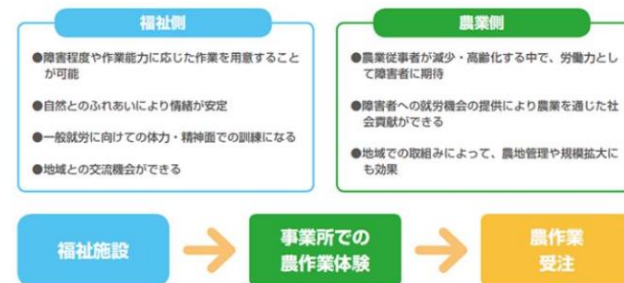
参考



○茨城県共同受発注センター ホームページ

農福連携の推進

福祉の課題と農業の課題を相互に解決できる取り組みとして、「農福連携」の取り組みが注目されています。国では「ニッポン一億総活躍プラン」や「日本再興戦略」（ともに平成28年6月閣議決定）において、障害者等の農業への参加促進が位置付けられ、加えて「農福連携推進ビジョン」（令和元年6月閣議決定）が策定されるなど、国の施策としても推進されています。茨城県でも、障害福祉課だけに留まらず、農村計画課、農業総合センター、各地域の農業改良普及センター、そして当センターと連携した形で、農福連携を推し進めています。



8

農福連携を始めるきっかけ



○社内で検討するが、お断りする。

- ・障害者のことを良く知らない
- ・（パート）一緒に仕事できるのか不安
- ・やはりパートを募集した方が良いかなあ。



- 再び、茨城県共同受発注センターと茨城県県央農林事務所の職員が訪ねて来て、農福お試し会（福祉事務所による農作業の実践）を提案された。

農福連携を始めるきっかけ



○農福お試し会

- ・ベビーリーフのパック詰めを実践

社員が3時間程度かかる作業を、福祉事業所からの参加者(全員で)は1時間程度で終了した。

「これはスゴイことになるぞ！」と感じ、委託を決めた



体験会で指導員にパック詰め方を説明

農福連携の取組



○2つの福祉事業所（就労継続支援B型）

- ① 障害福祉サービス事業所 たけのこ
週4・5日、1日4人、利用者※一人当たり1日6時間
- ② 社会福祉法人 清香会 育心会（生活介護等）
週1日、1日4人、利用者一人当たり1日3時間



※利用者とは福祉施設を利用している障害者のこと

農福連携の取組



○利用者の作業内容

- ベビーリーフの計量パック詰め、リーフレタス等の袋詰め、水耕パネルの清掃、水耕野菜の定植



作業改善のきっかけと結果

○作業改善

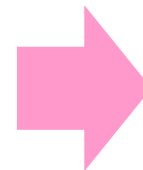
- 社員が行っていた作業方法では、利用者が思うように作業が出来ない事が多々あった。
- 利用者に合わせた作業方法を新たに取り入れることにした。
- 新たに作業方法を取り入れた結果、社員も新しい作業方法の方が楽で効率が良いということが多々あった。
- 様々な工程を改善し、大幅に業務効率が向上した。

13

作業改善の具体例①

○パック詰めの流れを変更

利用者が作業をしやすいよう作業の流れをコの字に変更し、対面でも作業ができるようにした。

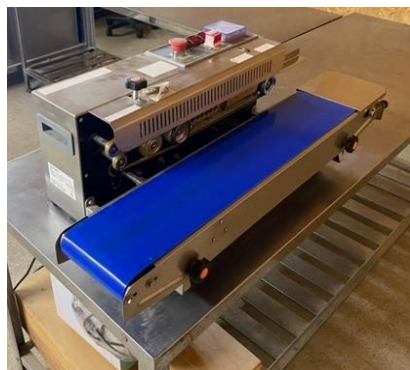
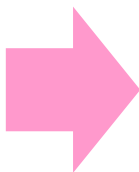


14

作業改善の具体例②

○パック詰めの流れを変更

自動シーラーを導入し、力を入れなくてもパックできるようにした。



15

作業改善の具体例③

○パック詰めの流れを変更

計量時にザルに入れていたが、パックに変更したことで、葉を手で摘まむ回数を減らし、潰してしまう機会を減らした。



16

作業改善の具体例④



○パッケージを変更

利用者が作業をしやすいパッケージを考案。



17

作業改善の具体例⑤



○作業環境を変更

パック詰め作業を行う部屋にエアコンを設置し、暑さ対策の実施など、効率化を図った。



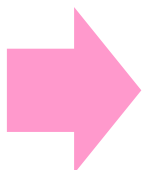
18

作業改善の具体例⑥



○作業環境を変更

夏場の暑いハウス内での作業をやめ、ハウス外のタープで作った日陰の下で扇風機も利用して作業し、植え終わったパネルをハウス内に運ぶ方法に見直した。
(社員も熱中症対策になり、作業効率が上がった。)



定植作業の様子

19

作業改善の具体例⑦



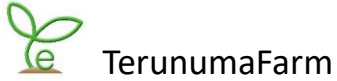
○計量器を変更

数字が表示されるデジタルのものに変更し、認識できるようにした。



20

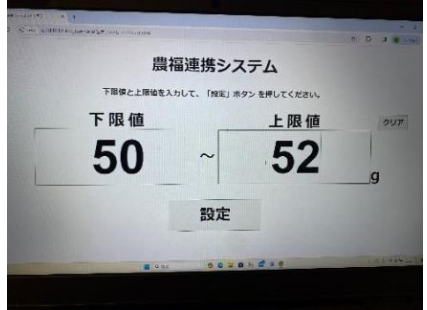
作業改善の具体例⑧



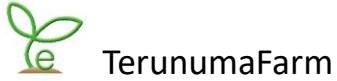
○パック詰め作業（ベビーリーフ）

パック詰め作業時の計量のミスをなくすため、作業数量をデータ化し、計量器に○×で表記されるシステムを開発し、作業効率の向上を図った。

地元のIT企業と連携し、作業を見える化するためのアプリを開発して導入



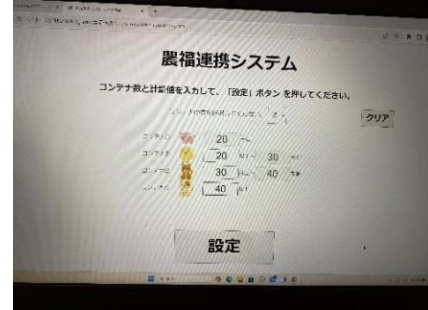
作業改善の具体例⑨



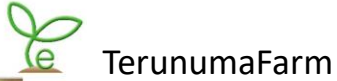
○パック詰め作業（レタス）

パック内の野菜の大きさを揃える為、計量器に乗せた重さ応じて、犬、猫、豚などの動物を画面に表示し動物毎のコンテナに分けて野菜の大きさを均一化を図った。

地元のIT企業と連携し、作業を見える化するためのアプリを開発して導入



作業改善の具体例⑨



ハカリマスターi
農福連携 システム

農福連携の生産現場における作業全体の軽減、生産性の向上及び働がいの者のモチベーションの向上を意図した。

野菜のパック詰め作業に「自動カウント機能」及び「戻める機能」を備えたシステムを導入

計量結果が適正となったときに視覚的・聴覚的に分かりやすく表示する。さらに生産性の向上を図るため、計量結果を自動的に記録し、日々の生産性を把握できるようにする。

PCで確認できるアニメーションマニュアルの作成

働がいの者が、作業方法を繰り返し学ぶことができるよう、アニメーション技術を活用したマニュアルを製作し、作業現場ですぐに参照できるようにすることで、生産性の向上を図る。

動画でマニュアルによって作業指示する指導員の負担を軽減するとともに、指導員のノウハウやスキルの上昇を図る。

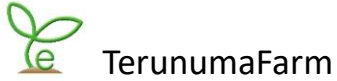
お客様の声 有限会社照沼農園様 所在地：茨城県水戸市

ハカリマスターiの導入前には、ベビーリーフ40g入りの1袋の重さが、生産によってばらつきが多く、再計量が頻りに必要でした。風袋を抜かず計量する生産もいて、再計量してかかる時間にもなっていました。また、1人の先生では計量ミスに気づくのが難しく、作業効率的に詰められませんでした。

ハカリマスターiの導入後、「O」の表示と「X」の表示とブザーの音により、計量ミスが完全になくなり、計量速度が向上しました。数字が読めない生産も作業に夢中になれるようになり、4人で400kgの計量を1人で担当できるようになりました。導入することで、野菜ごとに大中小が明確になり、1袋に入れる数量を正確に伝えることができるようになり、結果として、野菜の1袋の重量が均一になり、販売先での選別がなくなり、売れ残りがなくなり大変助かっています。

株式会社アブリシエイト
茨城県水戸市三の丸1-1-3 ステーションフロント水戸6F/7F
TEL:029-350-6880 / https://hakimaster-i-series.jp/

作業改善の具体例⑩



○マニュアルの作成



1.出勤から作業開始前準備	
作業工程	注意点
① 朝礼	<ul style="list-style-type: none"> ・荷物を所定の場所に置く ・横一列に並びハキハキと明るく挨拶をしましょう。
② 本日の作業内容の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・農場長から本日の作業内容をつたえる。 ・野菜の品目をつたえる。 ・野菜ごとのパック数を伝える ・野菜ごとの内容量を伝える。 ・最後に皆で作業内容があっているか確認をする。
③ 作業前の身だしなみ	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘアキャップを被る ・鏡、先生に確認してもらい髪の毛がしっかりとヘアキャップ内に入っているか確認 ・手を石鹸で洗う。 ・指定のゴム手袋を使用する。 ・指定の中履きに履き替える。
④ 計量機の設置・設定	<ul style="list-style-type: none"> ・計量器を所定の場所に設置する。 ・計量器の数字が0になっているか先生に確認してもらう。

作業改善の具体例⑩



○マニュアルの作成

5. 野菜定植作業		6. 水耕パネルの掃除	
作業工程	注意点	作業工程	注意点
① 準備するもの	<ul style="list-style-type: none"> ・ 苗。 ・ 作業手袋。 ・ 洗浄機。 	① 水耕パネル	<ul style="list-style-type: none"> ・ 収穫終了のパネルを集める。 ・ 切り取った根を引き抜き、ゴミ箱に捨てる。 ・ パネルを取ったあと水に浮いている野菜の葉などを網ですくう。 ・ すくった野菜の葉をゴミ箱に捨てる。
② 定植	<ul style="list-style-type: none"> ・ 苗箱の数字と定植パネルの数字を皆で確認する。 ・ すべての穴に苗を定植をする。 ・ 苗を定位置まで差し込む。 	② パネル洗浄	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水道蛇口をひねり水を出す。 ・ パネル洗浄機の電源を入れる。 ・ 集めたパネルを洗浄機に入れる。 ・ 洗浄機を通ったパネルを重ねる。 ・ 重ねたパネルの横を高圧洗浄機で洗う。 ・ 洗浄機に手を絶対に入れない。
③ 確認	<ul style="list-style-type: none"> ・ 苗を植えた所を皆で確認する。 ・ しっかり定位置まで入っているか。 ・ 穴を全て埋まっているか確認する。 	③ パネルを戻す	<ul style="list-style-type: none"> ・ 洗い終わったパネルを戻す。 ・ 定位置に戻っているか最後まで確認する。
④ 掃除	<ul style="list-style-type: none"> ・ 苗の箱を集める。 ・ 苗の箱を洗浄機で洗う。 ・ 苗の箱を重ねる。 		

25

取り組みの結果



○職場の雰囲気明るくなった。

利用者が持つ明るさや元気な姿勢が社員やパートに広がった。

○社員、パートの仕事内容が変わった。

パック詰めを福祉事業所が担ってくれることで、販売先への配送や事務仕事を社員・パートに頼めるようになった。

○ハウス面積を5.4m×300m拡大した。

販売が好調であり、出荷量を増やしたい時に、福祉施設の作業量をあてにして拡大した。

26

取り組みの結果



○利用者の工賃を向上

- ・ 福祉施設の職員と相談して、作業量から工賃を決めている。
- ・ 一部の利用者で時給600円にすることができた。
- ・ 今後は、時給500円を基本として、作業量に応じて加算する方法を検討している。

27

農福連携の成功のカギは



○最初から多くの結果を求めてはいけない。

- ・ 安定した作業を実施できるようになるには時間が掛かる。半年ぐらいかかるがこの期間に作業はどんどん早くなる。
- ・ 野菜40gを袋に詰める作業では、100袋作るのに3時間掛かっていたが、1時間でできるようになる。

28

農福連携の成功のカギは



○単に待つだけでは業務効率は向上しない。

どうすればより良くなるのか、何が悪かったのか話し合い、コミュニケーションをとって改善していく必要がある。

- ・利用者に業務を伝達
- ・指示する支援者とのコミュニケーション が重要

29

農福連携の成功のカギは



○支援者の能力が違くと大きく違う

支援者が同じ人とは限らないが、その時もコミュニケーションを取りながら改善している。

求められるのは、特別な能力ではなく、

- ・来た時の挨拶「おはようございます。」「こんにちは。」
- ・帰る時の挨拶「お疲れさまでした。」

などの、コミュニケーションをとる能力。

30

農福連携の成功のカギは



○支援者が声出ししていると、利用者も声出しをする。

- ・「もうちょっとですから、頑張りましょう。」
- ・「〇グラムの作業だから間違えないようにしましょう。」
- ・「袋がなくなったので持ってきてください。」

励まし合い、作業内容を声掛けすることで、良い雰囲気できて、業務効率も向上します。

31

今後の展望



○2023年から、地元の酒蔵、株式会社吉久保酒造様と連携し、農福連携で作った山田錦で純米大吟醸を作り始めた。



32

ご清聴ありがとうございました。

